

ステージセッション 14 反省会議事録

●第一部

[遊び]

*前半はよし◎ 遊びの最後がグダグダ

→テンポアップを図る

*2人司会◎

→トークは良い感じ。次回はグダらないように！

*チーム毎の人数が多くて大変

→時間制限を設け、厳守して頂く

*実行委員だけで楽しまない

→「参加者を楽しませる意識」の事前の呼びかけ。実行委員は周りの雰囲気を感じて行動する

*指示を聞いてくれない

→話す人は頑張る。

*一枚の絵の温度差

*一枚の絵の位置

→周りのことも考え節度ある行動を。実行委員は特に

*一枚の絵の長さ

→早ければ早いほど第二部の練習時間が多く設けられるので、早くてOK。テンポアップを図る

*デモのテンション

→恥じを捨ててテンションあげる。事前会議のときに遊びの練習をもっとたくさんやる。

*ゲームの種類を考えたらず？

→脱マンネリ化に向けて遊び系の創意工夫を。考えましょう

*点数の付け方×

→受付との連絡もしっかりとる。

*点数結果発表

→事前に結果発表の様式を相談して決めておく。受付点の制度を導入するなら事前に参加者等にも言うておく。

*チーム紹介の順番

→司会はマイクで一発で指示。朝にリハーサルができたらいいのかも。

*チーム紹介のマイク

→基本マイクは使わない。全体司会のみ使用する。

●第二部

*実行委員の各チームへの配分

→人気のありそうなところには頼りになる人をつける

*募集人数を遥かに上回る参加者

→人気でそうなチームは事前に何らかの対策を。

*練習時間をもっと長くして欲しい

→第一部を削って長くする

*廊下等で通行の方の邪魔をしない

→廊下でやる人は周りを見て練習を。人が来たら邪魔にならないように道を開けましょう。元気に挨拶をしましょう！（←チームリーダーが徹底）

* 発表の14時の集合が守れていない

→10分前に切り上げ余裕をもって発表に臨もう、と事前の呼びかけを。

* プログラムに時間を書いて欲しい

→次回は書いてみましょう

* 特殊なことをするときは司会と相談

→要相談。連絡をしっかりとって司会に把握してもらおう。

* 司会◎

→ありがとうございました

* 発表のときOKはチームリーダーが出したら？

→そうしましょう。チームリーダーの合図で始めましょう

●運営 etc

[受付]

* 一校ずつ◎

→次回も続けていきましょう

* 受付の参加費収集のためにいくつか区切りのある箱が欲しい

→箱を作りましょう

* 領収書の順番を決めたい

→あいうえお順にする。

* ガムテープの用意の工夫◎

→次回も引き続き事前に用意をしておいてください

* 実行委員自身が赤ガムテのことを知らない

→リハ時と朝に言いましょう

* 挨拶ができた◎

→これからも実行委員は進んで自ら挨拶！

* 事前に「せんたりんく」にどんなチームがあるのか載せて欲しい

→ジャンルやチーム紹介を載せておきましょう。「せんたりんく」の管理をしている先生や会場校の先生等、先生方にはチームを連絡しておく。

* 機材についての説明不足

→会場校は事前に、誰が説明するか・いつ説明するか等段取りを決めておく

* 全員が朝集まれなかった

→遅刻厳禁。集まる時間を指示しておく

* 朝係りごとの集まりが出来てよかった

→次回も朝のミーティングは欠かさずに。

* 着替えが終わったら早く出てきて欲しい

* 更衣室に荷物を置きっぱなし

→係りの人を置いて連絡を

* 練習場所が書いたプリントを配る係りを決めたら？

→朝のミーティングで会場校が配る。その作業を円滑に進めていくためにも第二部のチームリーダーを決めておく。

*きれいに使ってくれてありがとう◎

→こちらこそありがとうございました。次回もよろしくお願い致します！

* 第三部(交流タイム)◎

→今後もやりましょう

●今後の課題

今回のステーション 14 は参加人数 155 人、
東京の 6 地区全てからの参加で新記録が誕生しました。

そこで浮上したのが増えていく参加者に対して我々中央地区はどのような対処をしていくのか、ということでこんな意見が多々出ました…

* 参加人数が増えすぎ

* チーム数が急激に増えた

* 大人数に対する対策を立てたら？

* 定員を決めたら？

そこで出した私達の今後の方針↓↓

[期日]

期日を決める。

次回のステーション 15 では本番の 1 週間前までを締め切りとし、もし期日を過ぎてしまった場合はご相談して余裕がまだあれば参加してもらおう。

[人数]

参加したい高校は人数の目安を中央地区宛てに送ってもらう。

また、定員を次回のステーション 15 では 120 人に設定し、その定員に合わせて実行委員はチーム数・チーム人数などを考えて計画していく。

という方針を打ち出しました。